

ご近所助け合い型サロン(絆サロン)助成金



2

共栄さろん

サロン運営団体 鹿嶋市共栄区



2

鹿嶋市

開催日及び開催頻度

月1回(土曜日)
10:00~12:00

開催拠点 共栄農村集落センター

代表者氏名 岡野 博

1回の参加人数 25名

参加費
(1人1回あたり) 0~500円

広報方法
●チラシ(年3回)
●回覧板(月2回)



開催地域の様子

● 定年退職後田舎暮らしにアコがれて転入する人、別荘とする人さまざまですが、転入、転出が頻繁で空き家が日に日に増加しています。現在定住戸数は200戸ほどありますが、一人暮らしが高齢者が全く情報が得られません。排水設備の無い地域で、豪雨が続き、手を差し伸べられない、ましてや地震発生時には、自主防災機能が発揮できない。高齢化率は36.4%(自主調査)。自治会加入率は23.4%まで落ちました。自治会存続に危機感を覚え、昨年から夏まつりを開催し、今年からさろんを開催するなど地域とのゆるやかなつながりの場を作りました。その中から、小学生のいる家庭5軒、その他2軒が新規加入となり、減り続けた自治会加入に少し歯止めをかけることが出来ました。



サロンに取り組む動機・サロンの将来像

● 同じ地域に住む誰もが気軽に自由に参加できる多世代交流の場が欲しい、隣近所のゆるいつながりが消えつつあることに危機感を持ったメンバーが中心となり夏祭り、さろんの開催にこぎつけることが出来ました。もともと、夏祭りもさろんも自治会加入の有無は問わないことを原則に始めたものなので、特に高齢、あるいは独居の自治会未加入が気軽に立ち寄れる場づくりを目指したいです。そして、なによりも災害発生時に一人でも多くの方々に手を差し伸べる助け合い活動につなげたいです。



サロン運営上の協力者

- 鹿嶋市役所市民活動支援課
- 鹿嶋市社会福祉協議会

連携先・協働先

- 自治会は、集落センターの使用に当たり、使用料は取らない、洋式トイレへの更改、電子レンジの新規購入、ガス台の更改など、使いやすさを応援してくれています。社会福祉協議会からは助成金(3年を期限として計7万円)をいただくこととなっています。
- 毎月のさろんの開催日には、10人以上のボランティアさんが自主的に応援してくれています。
- 8月のさろんは夏祭りです。夏祭りは青年部が仕切り、フリーマーケットの野菜は農家さんから提供のあったものを、食材の準備は女性部が担当、孟宗竹をくりぬいて流しそうめん流し台を作る担当、かき氷機は保育園から無料で借用、子供会育成会がパーベキューを担当するなど、普段会う機会のない人々が一堂に会して楽しめる場になっています。嫁いだ娘と一緒に、普段はみられない孫を抱えた姿などほほえましい風景の中で、あちこちで昔話に花が咲いていました。区内全域に開催チラシを手渡することで、多くの区未加入の方が参加して声をかけてくれ、名前や住んでいる場所を教えてくださいなど、隣近所の輪が少しだけ広がってきたように思えました。

コロナ禍でのサロン活動について

- 10/17(土) 歴史ウォーキングが予定でしたが、雨天のため、感染症予防対策を踏まえて、地区センター内で、区長さんを講師に迎え、歴史講座を開催しました。
- 11/28(土) は、さろん役員で餅をついて地区全戸に配布します。



運営費の確保方法

- 自治会からの補助(期限なし)や社会福祉協議会からの助成(期限あり)
- 参加者からの参加費(0~500円)
- 野菜農家さんから昼食メニューにあった食材を寄付していただいている。

サロンのウリ

- 地域内全世帯、全世代を対象にプログラムを工夫し、食べる楽しみを付け加えていること。
- ボランティアさんの役割等は来る人拒まず、去る人追わずとし出入り自由に行っていること。
- 地域の歴史に関心を持てるようにプログラムを工夫していること。
- お茶を飲んで、体を動かして、食べて、おしゃべりをして楽しければそれでよしをモットーにしていること。
- 合言葉は、30年後に、うまく世代交代ができる活動、それを模索しながら活動すること。



◆ 助成金の活用によりパワーアップした活動

- ◆ サロン活動で使える豆知識
- ◆ サロン活動の醍醐味

など、これからサロン活動を予定している方へのメッセージ

- サロン活動は、地区に加入している否を問わず、多くの方に参加していただく事で、情報交換など交流のできる絶好の場です。このような場で食を共にし、物作りや地区の歴史を学び伝承していく事は、次世代へつながりをもつ大変有意義な活動であると思います。